

新規事業採択時評価結果（平成29年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
 担当課長名：川崎 茂信

事業の概要

事業名	一般国道36号 白老拡幅	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北海道開発局
起終点	自：北海道苫小牧市樽前 至：北海道白老郡白老町社台	延長	4.8 km		
事業概要	一般国道36号は、札幌市から室蘭市に至る延長約130kmの主要幹線道路である。このうち白老拡幅は、苫小牧市樽前と白老町社台に至る延長約4.8kmの4車線拡幅事業である。				
事業の目的、必要性	当該区間の整備により、観光期の渋滞ボトルネックが解消され、新千歳空港からの周遊観光やアイヌ文化復興の拠点整備等を支援するとともに、国際拠点港湾である苫小牧港と室蘭港間の円滑で安全な物流ルートの確保により、企業活動を支援するものである。				
全体事業費	約40億円	計画交通量	約22,200台/日		
事業概要図					

関係する地方公共団体等の意見
 【北海道知事】
 新規事業採択時評価に係る「一般国道36号 白老拡幅」事業の予算化に同意いたします。
 白老町のポロト湖畔では、民族共生象徴空間の整備が閣議決定され、平成32年の一般公開へ向けて取組を推進しているところです。これに併せて、北海道では地域と一丸となって象徴空間周辺の道路、鉄道など交通アクセス全体の改善に取り組む推進体制を構築し、年間100万人の来場者を受け入れるために必要となる準備を着実に進めてまいります。更に、関係者協議等につきましては、民族共生象徴空間の一般公開に向け、国道の事業が円滑かつ迅速に進められるよう最大限努力してまいりますので、国においても早期完成に向け、特段のご配慮をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
 ・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
 ・費用対便益：便益が費用を上回っている。
 ・手続きの完了：都市計画決定手続き完了（S41.12）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	1.5 (1.5)	総費用 138億円 (事業費：106億円 維持管理費：33億円)	総便益 214億円 (走行時間短縮便益：182億円 走行経費減少便益：17億円 交通事故減少便益：15億円)	基準年 平成28年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.2 (交通量 -10%)	B/C=1.9 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.4 (事業費 +10%)	B/C=1.7 (事業費 -10%)	
		事業期間変動	B/C=1.5 (事業期間 +20%)	B/C=1.6 (事業期間 -20%)	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠	
		渋滞対策	◎	交通容量の増加により、観光期の渋滞の解消。 【混雑度】 現況 2.17 → 整備後 0.94 [約6割減少]	
		事故対策	◎	車線数の増加により、物流交通と生活交通が分断され安全性が向上。 【死傷事故率】 現況 全国平均以上2箇所 94~109件/億台キロ 整備後 13件/億台キロ	
	社会全体への影響	歩行空間	—	注目すべき影響はない。	
		住民生活	—	注目すべき影響はない。	
		地域経済	◎	新千歳空港から国道36号沿線の観光拠点に立ち寄り登別温泉等へ周遊する観光を支援。 [白老町～苫小牧市の所要時間（観光期）] 現況 39分 → 整備後 33分 [約6分短縮]	
		災害	—	注目すべき影響はない。	
環境	—	注目すべき影響はない。			
地域社会	◎	「民族共生象徴空間」へのアクセス道路整備により、アイヌ文化復興の拠点整備等を支援。			
事業実施環境	○	・都市計画決定手続き完了（S41.12） ・北海道知事や苫小牧市長、白老町長ら沿線自治体首長より国道36号の2車線区間の4車線化を要望			

採択の理由

費用便益比が1.5と便益が費用を上回っているとともに、都市計画決定手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、当該区間の整備により観光期の渋滞解消や事故減少並びに地域経済等への効果が期待でき、事業の必要性・効果は高いと判断できる。
 以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※B/Cの上段は苫小牧市～室蘭市を対象とした場合、下段（ ）書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果。